１　調査の概要

１　調査の目的

2024 年 4 月からのトラックドライバーの時間外労働規制の本格導入に伴うドライバー不足の懸念が高まっている中、いわゆる物流の 2024 年問題への対応は水産物流通にとっても重要課題であり、物流の合理化・効率化は不可避な状況である。

水産物は、これまで物流標準化の取組が先行している加工食品、青果物等と比べて、不定貫であり、商品にあった温度帯での管理が要求されることや、漁獲の変動が大きく物流波動も大きいなど物流標準化に向けての考慮すべき特殊性が多いが、水産物の特殊性を踏まえた物流標準化を進めるため、水産物流通における荷姿の実態やパレット・外装などの物流資材の使用状況等の基本調査を実施し、その調査結果を今後の水産物流通標準化の検討に当たって一助とする。

２　調査内容及び調査対象先

鮮魚（ぶり類、あじ類、たい類、まぐろ類、いわし類）、冷凍（冷まぐろ類、冷さけ・ます類、冷えび類、冷いか類）、加工品（塩干品類、練製品類、塩蔵品類、煮干製品類、湯煮品類）ごとに、福岡市中央卸売市場魚類市場、大阪市中央卸売市場本場、東京都中央卸売市場豊洲市場、長野地方卸売市場の 4 市場にて産地市場、産地仲買・加工業、卸売業者、仲卸業者、量販店等の実需者の段階別に荷受け・仕入、小分け又は出荷時の

① 荷姿（産地で水産物が梱包されて、その後どのような荷姿で流通するのか）
② 使用しているパレット、台車（平パレット、ロールボックスパレット、かご台車）
③ 発泡スチロール、段ボールなど物流資材（サイズ）
④ 問題点、改善点の使用状況等を調査

・現場確認及び取材先の選定

本調査は、水産物の流通段階別の荷姿・物流資材の状況について現場で目視確認による調査を基本とする。